

PSS 第25期決算説明会

2010年8月31日

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

Contents

I. 第25期決算の概況

- 第25期の概況
- 業績ダイジェスト
- 第25期事業トピックス

II. 第26期以降の事業展開

- 多様化する市場ニーズへの的確な対応
- Magtration[®] + α での提携
- 新規開発自動解析装置とターゲットエリア

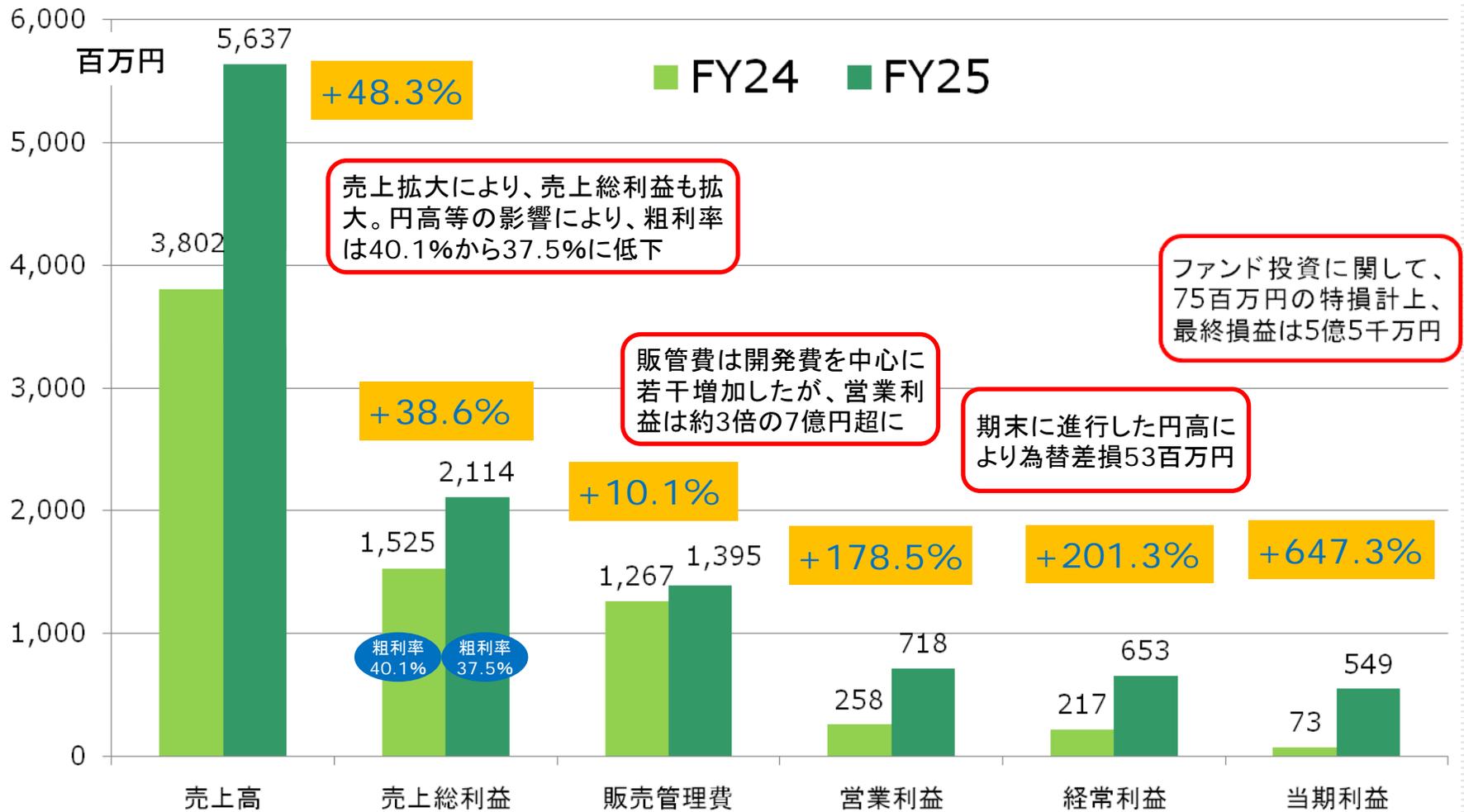
I. 第25期決算の概況

- 第25期の概況
- 業績ダイジェスト
- 第25期事業トピックス

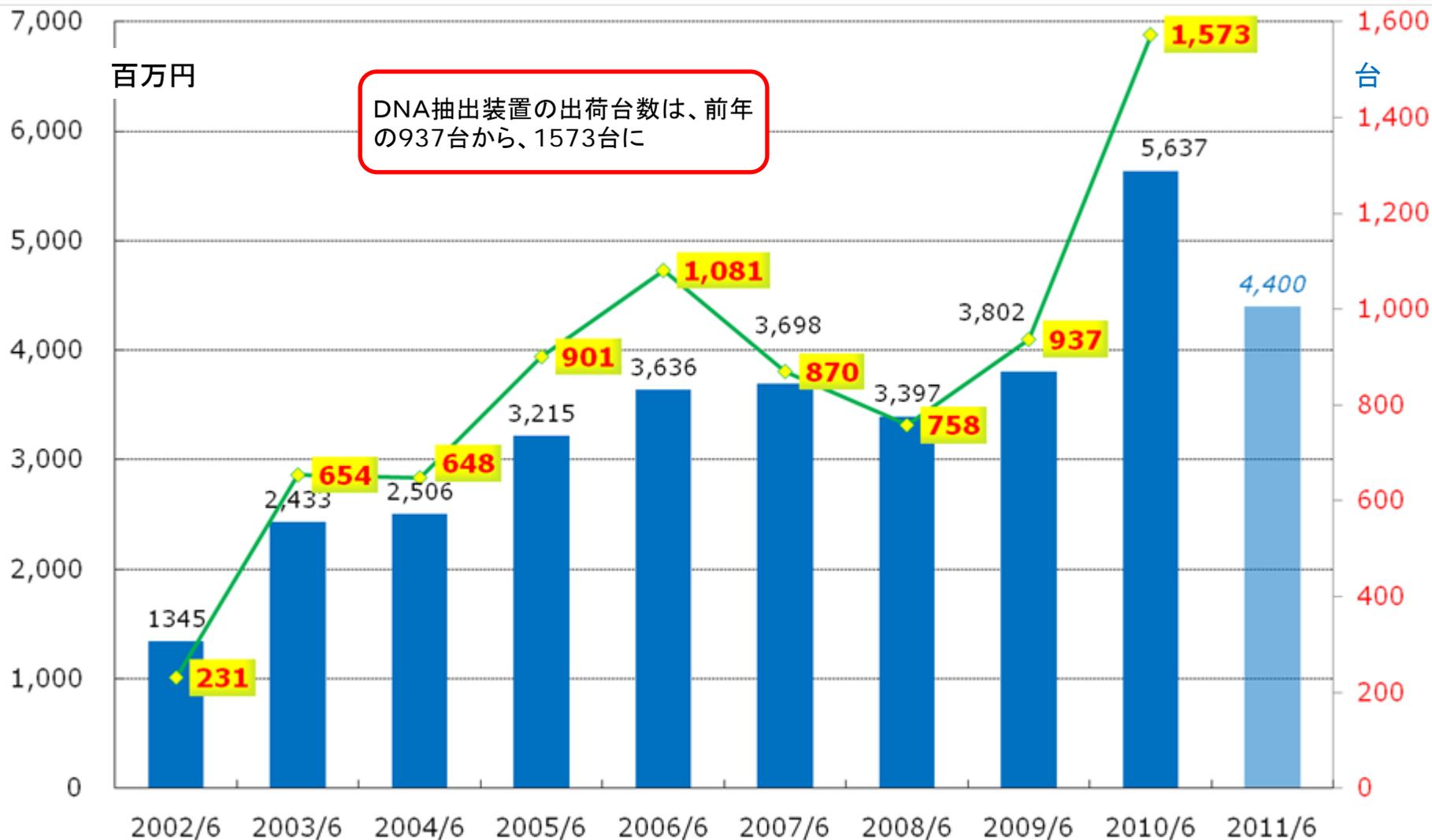
第25期決算の概況

- 新型インフルエンザ、警察科学捜査向け遺伝子検査需要の高まりに伴い、抽出装置、プラスチック消耗品の販売が急拡大し、売上高、利益とも過去最高の実績を記録。(配当実施予定)
- 米国子会社が黒字化。主要3社(PSSJ、PSSE、PSS USA)が最終利益を計上したことで、日米欧の三極体制が本格的に機能し始めた。
- 新株予約権発行による増資により、期末までに3億5千万円を調達。設備投資、研究開発資金に使用。7月1日付で、1:2の株式分割実施。

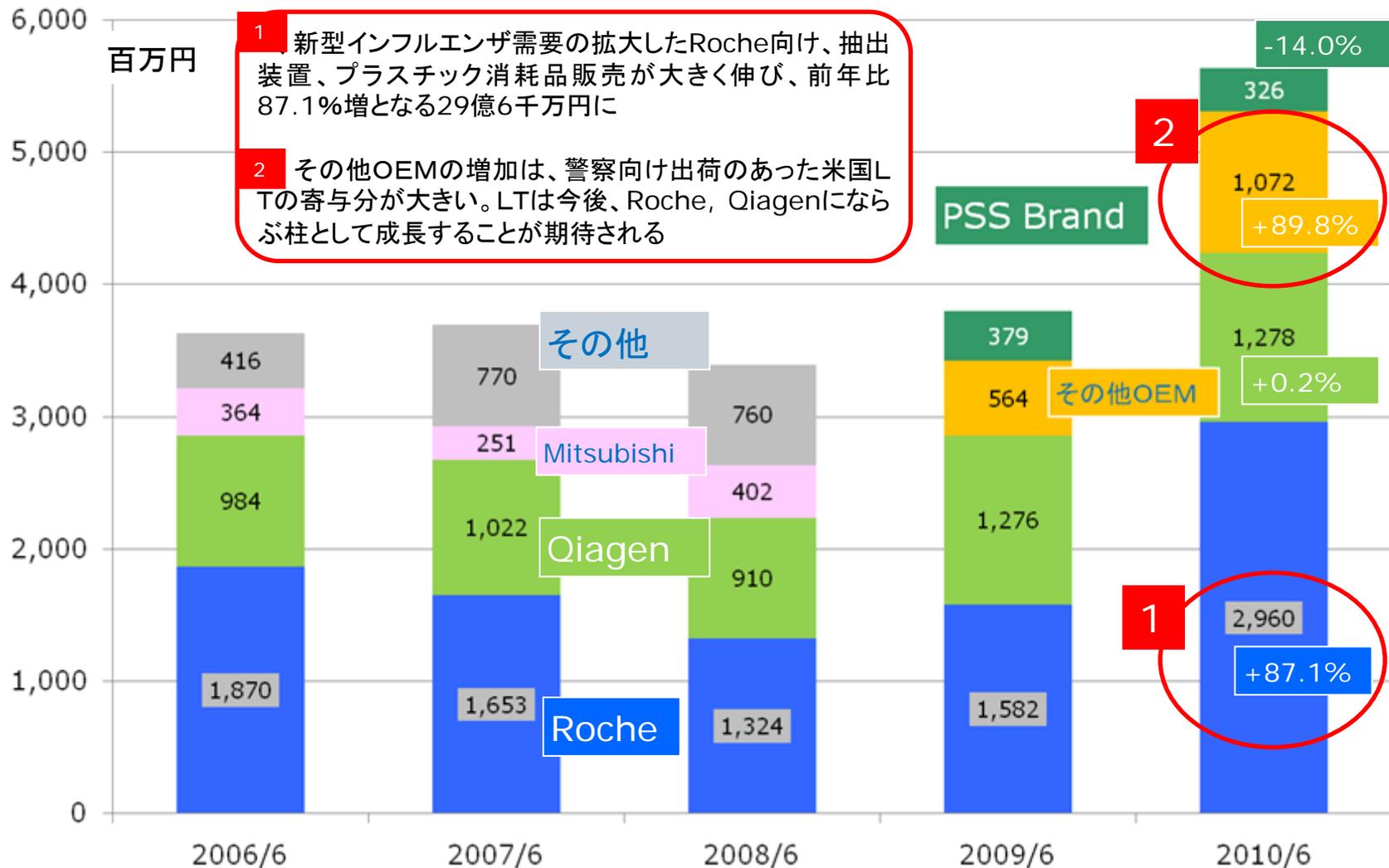
第25期の業績ダイジェスト(前期比較)



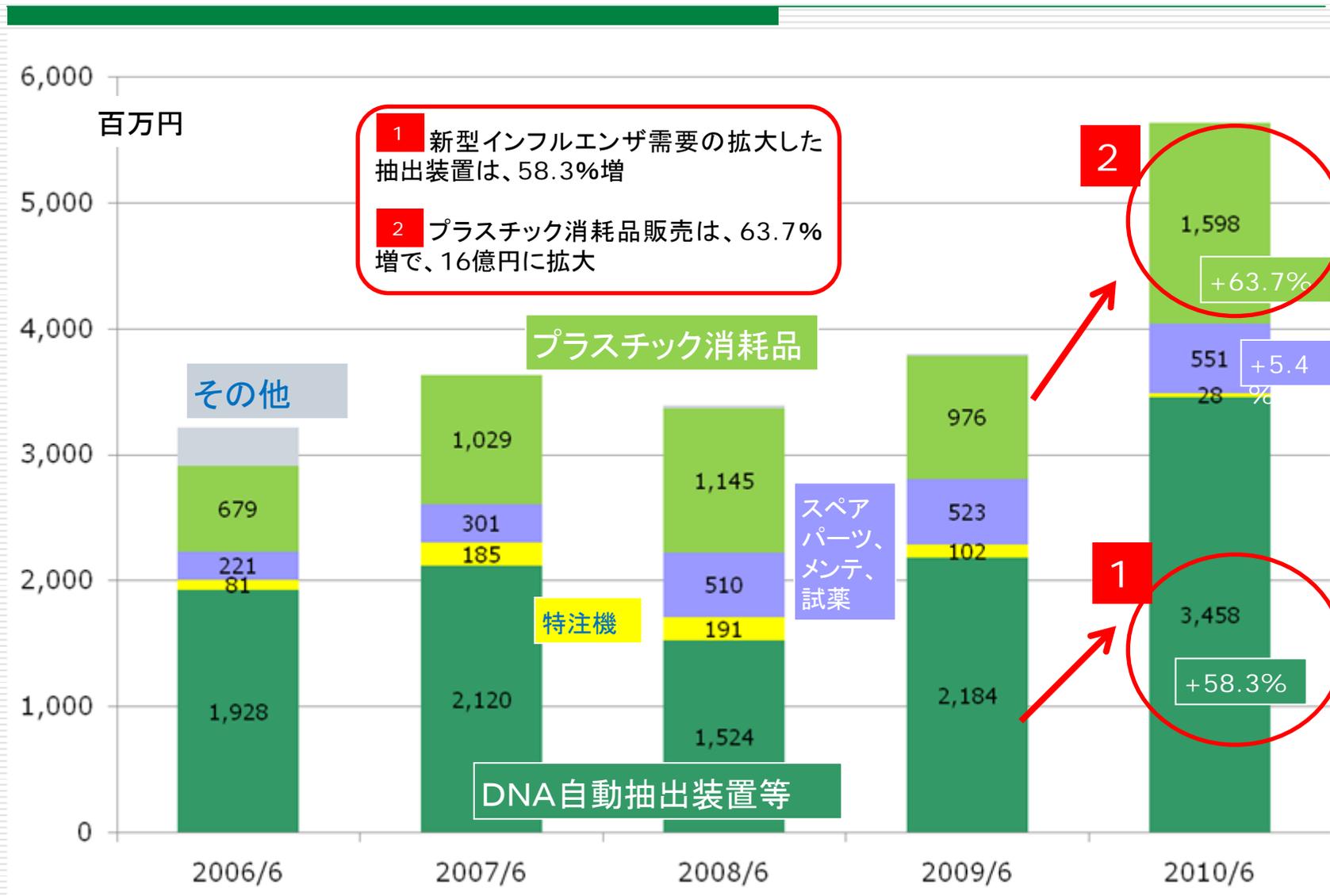
売上高 & 装置販売台数推移



販売先別売上高推移



製品区分別販売状況推移

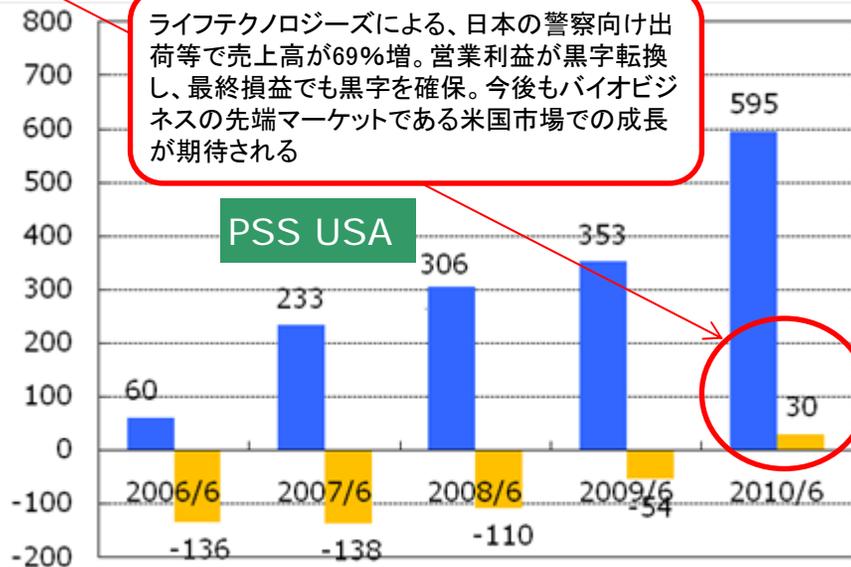
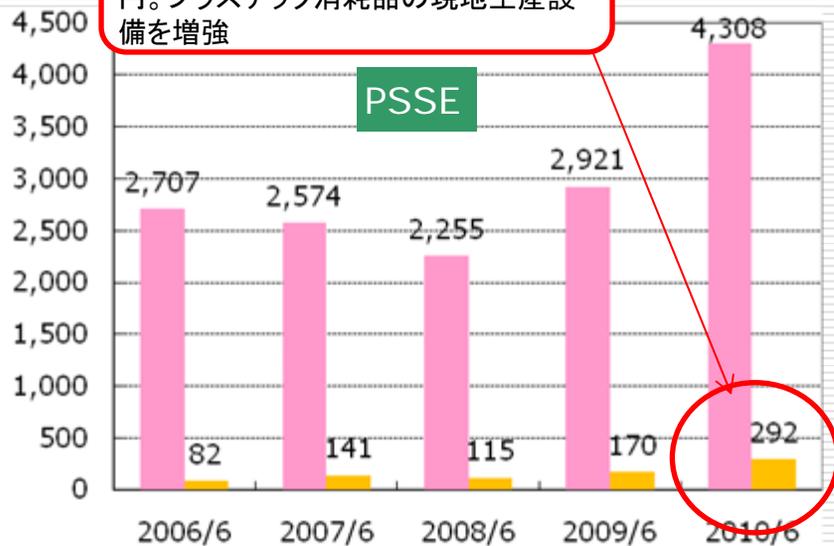
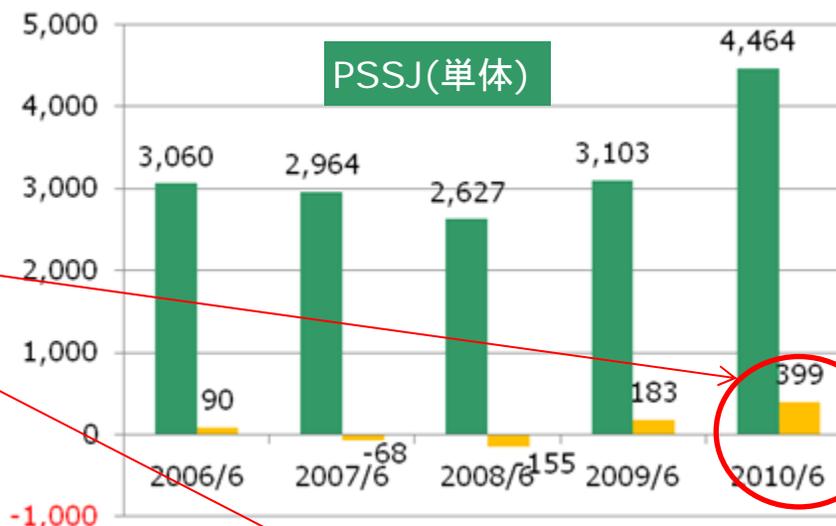


PSS 主要3社実績 売上高&営業利益

単位:百万円

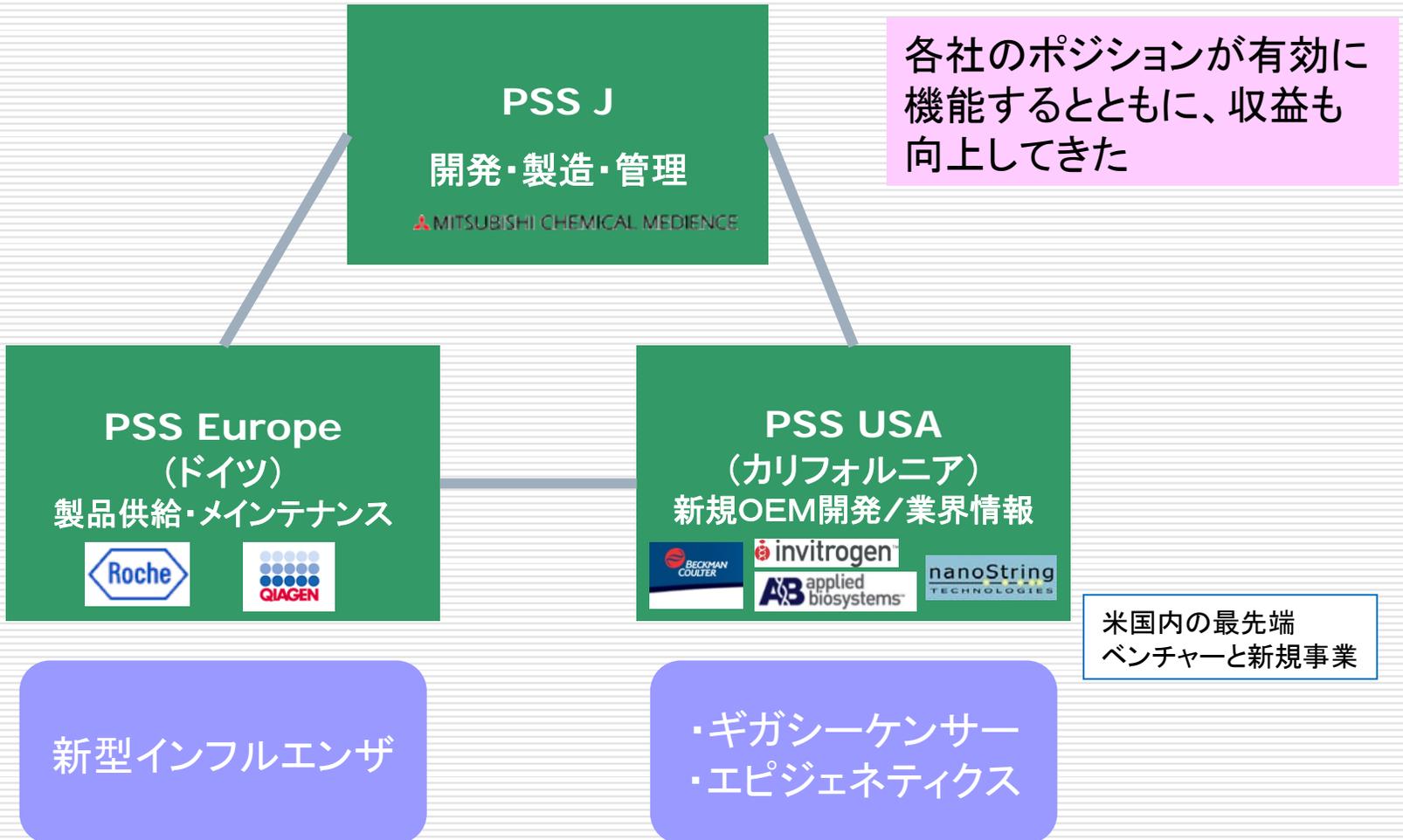
日米欧の主要3社がそろって、黒字化を達成。グループ内における、役割それぞれ異なるが、一定の成果が確認できる

ロッシュ向け販売が好調で、前年比47%増となる過去最高の売上高43億円。プラスチック消耗品の現地生産設備を増強



ライフテクノロジーズによる、日本の警察向け出荷等で売上高が69%増。営業利益が黒字転換し、最終損益でも黒字を確保。今後もバイオビジネスの先端マーケットである米国市場での成長が期待される

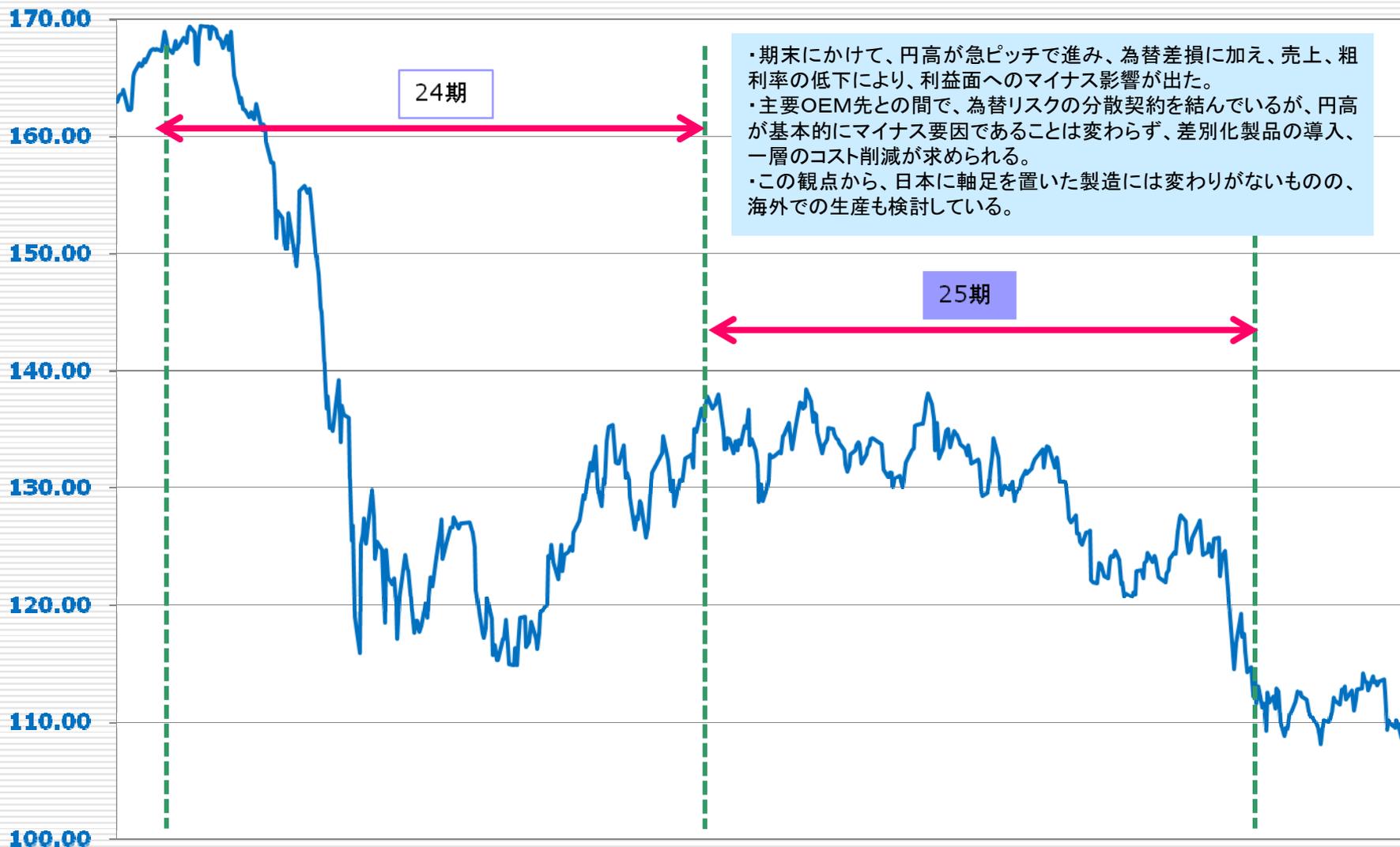
主要3社の役割分担



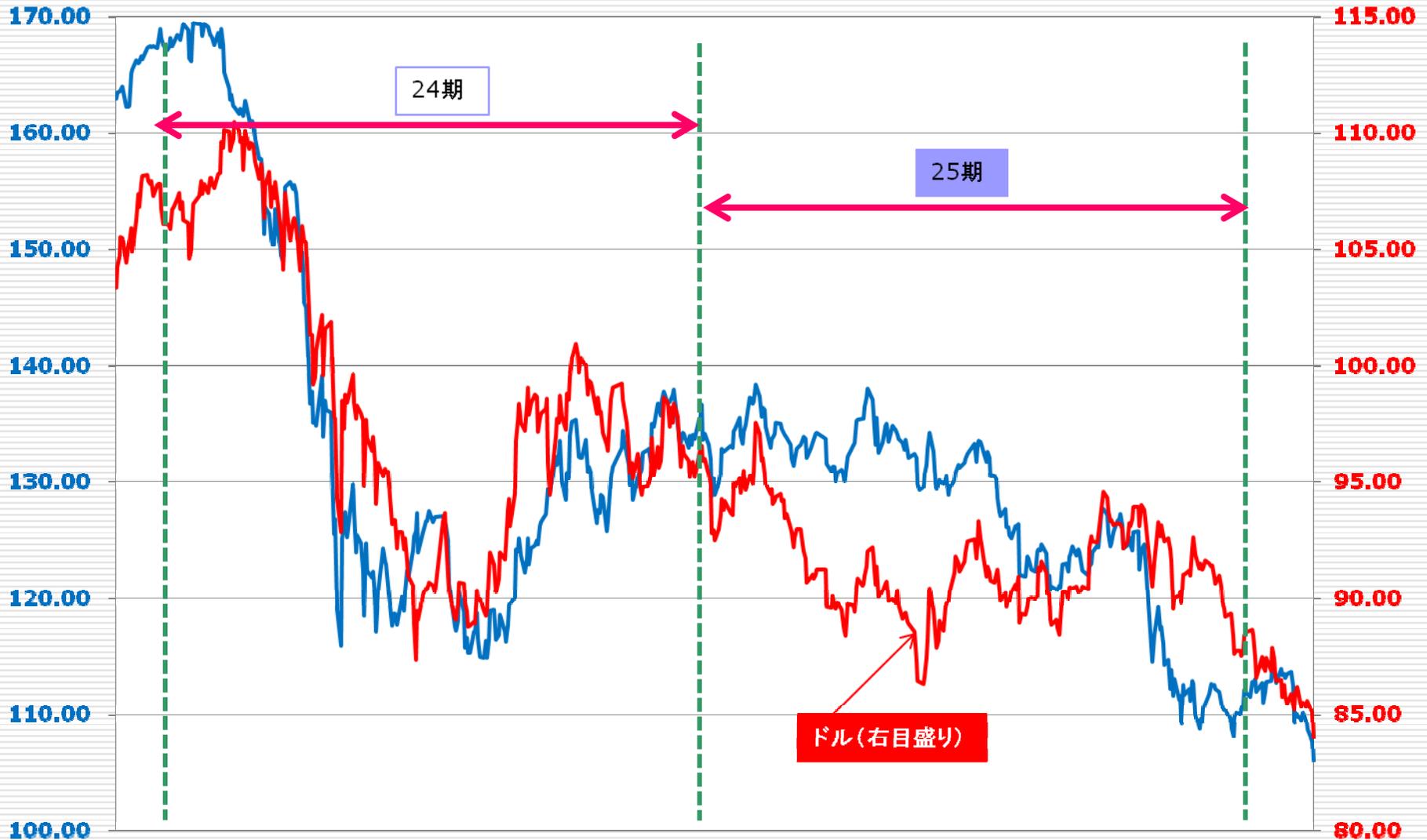
PSSEがプラスチック生産設備を保有し生産
を委託するグレーナー社工場
(オーストリア リンツ市郊外)

同工場内に追加投資した
プラスチック消耗品生産機

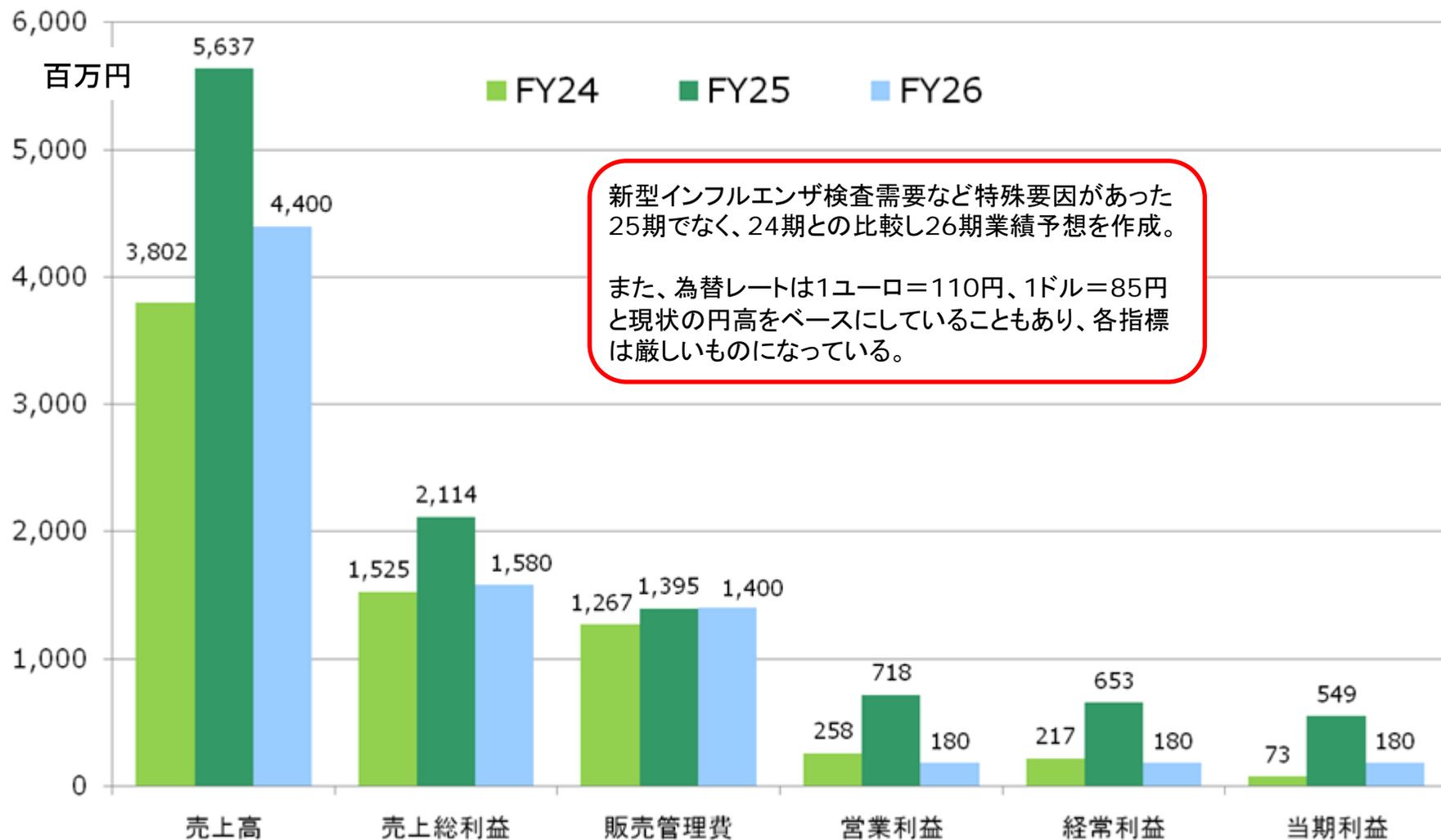
ユーロ/円レート推移



ユーロ&ドル/円レート推移



第26期見通し



第25期事業トピックス (日付はリリース発表日)

7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8

新型インフルエンザ向け需要拡大



警察向け需要



急拡大する遺伝子検査需要へ 確実な生産・出荷対応

9月14日
製造委託会社
NPS(株)に
33.4%出資

欧州におけるプラス
チック生産設備の増強

8月13日
NEDOがん超早期
診断プロジェクトで、
共同研究先に採択

UBRによる新規製品の集中開発

9月8日
米国大手臨床検
査センターARUP
と販売・保守契約
を締結

資金調達(12月18日)
第三者割当新株予約権発
行で、最大10億円の資金
調達を発表

これまでに、
3億5千万円
を調達

株式分割(5月14日)
株式の流動性向上のため
7月1日付での株式分
割(1:2)を発表

特許訴訟(7月22日)
特許侵害で、韓国企
業を相手に訴訟提起

II. 第26期以降の事業展開

- 多様化する市場ニーズへの的確に対応
- Magtration[®] + α での提携
- 新規開発自動解析装置とターゲットエリア

SX-8G Compact

全自動核酸抽出・サンプル調整装置

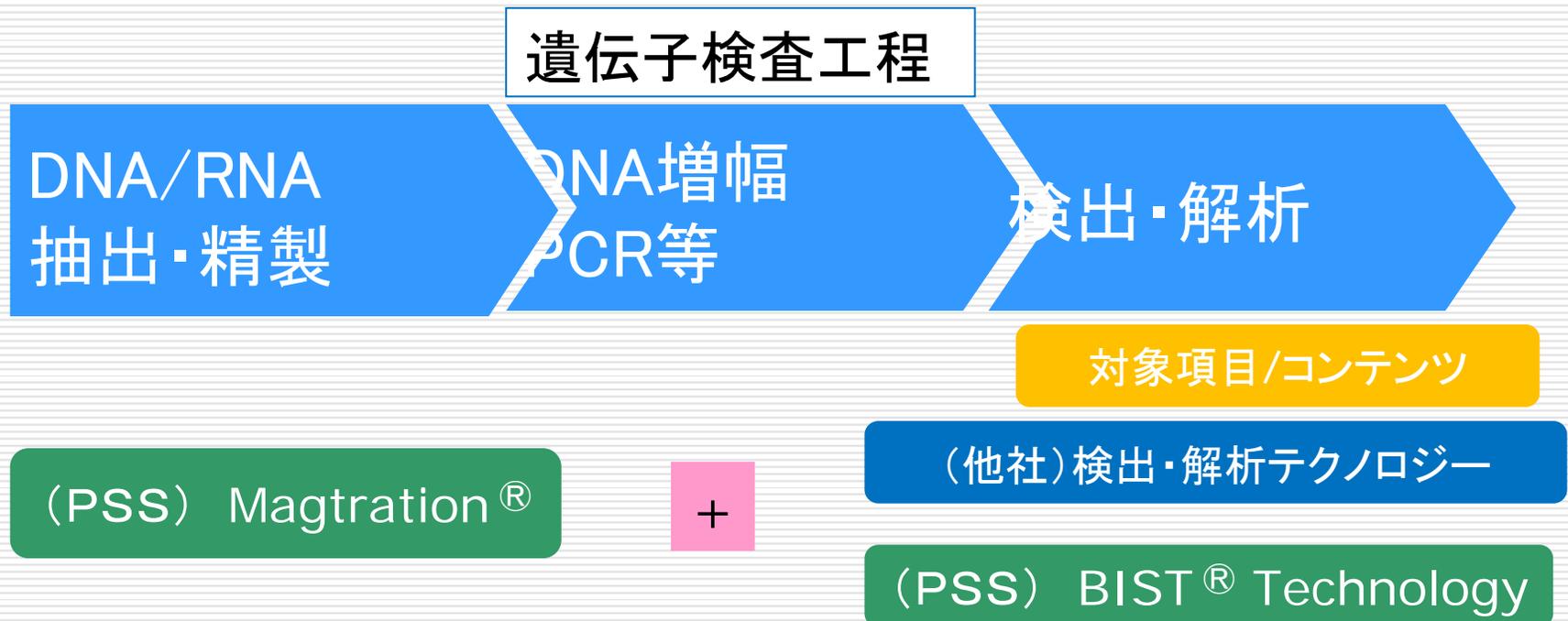
- 欧米バイオ市場の最新トレンドへ対応
 - ギガ・シーケンサー前処理として
 - エピジェネティクス解析用前処理として

欧米の新規代理店を通じた
販売が本格化

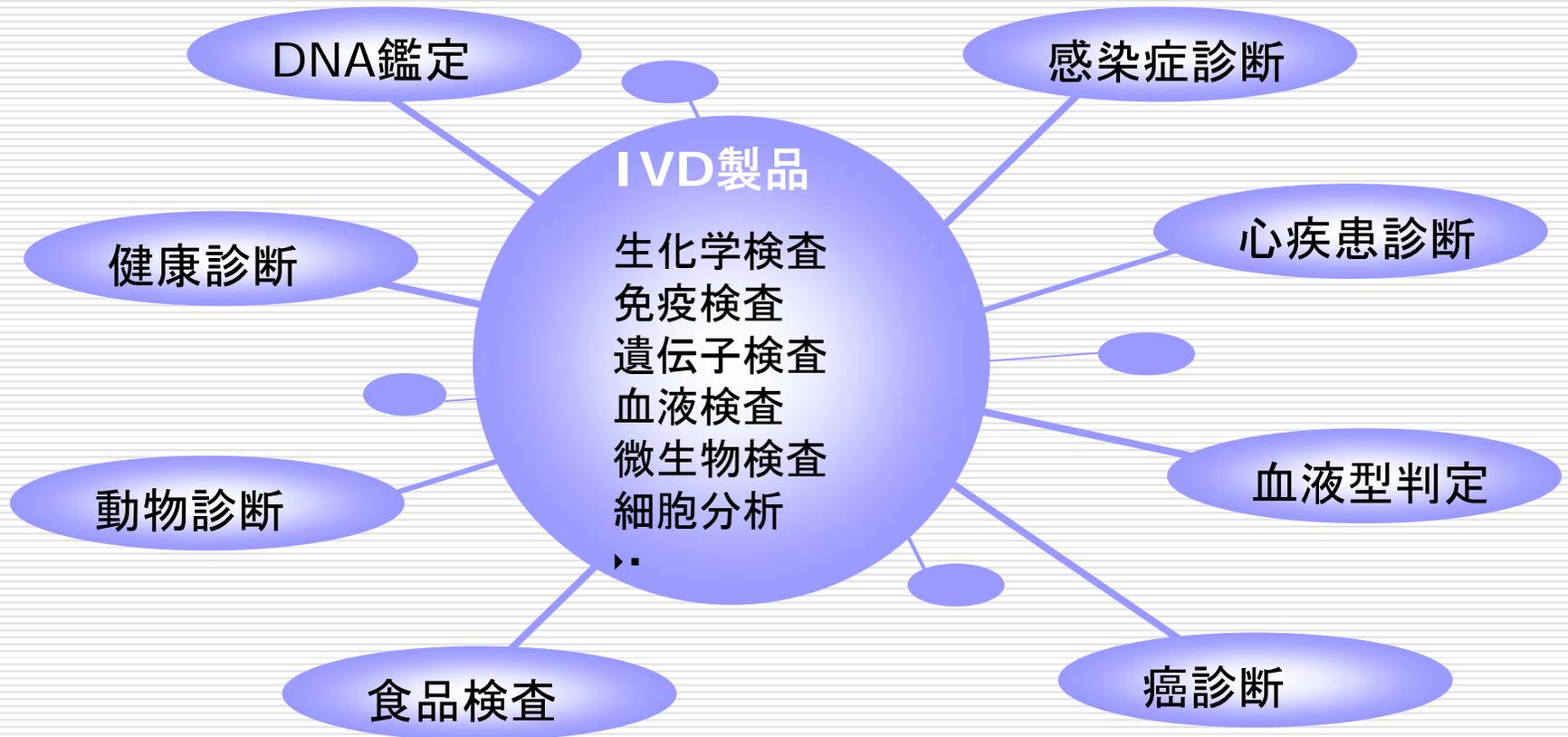


Magtration[®] + α 提携

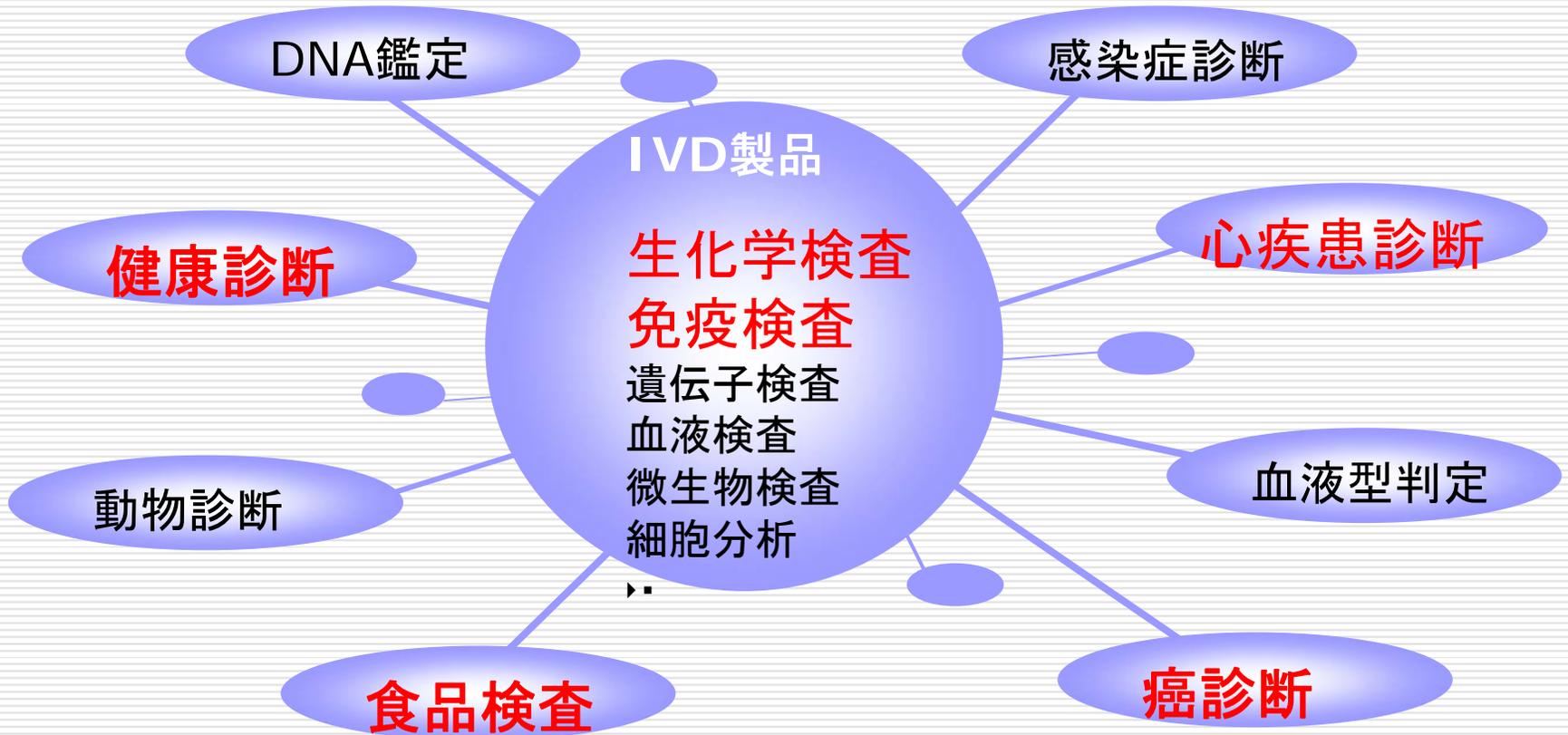
- 遺伝子検査において不可欠な抽出工程をおさえる PSSが、他の有力テクノロジー、コンテンツを有する企業・機関と提携することで、迅速な事業化につなげる。



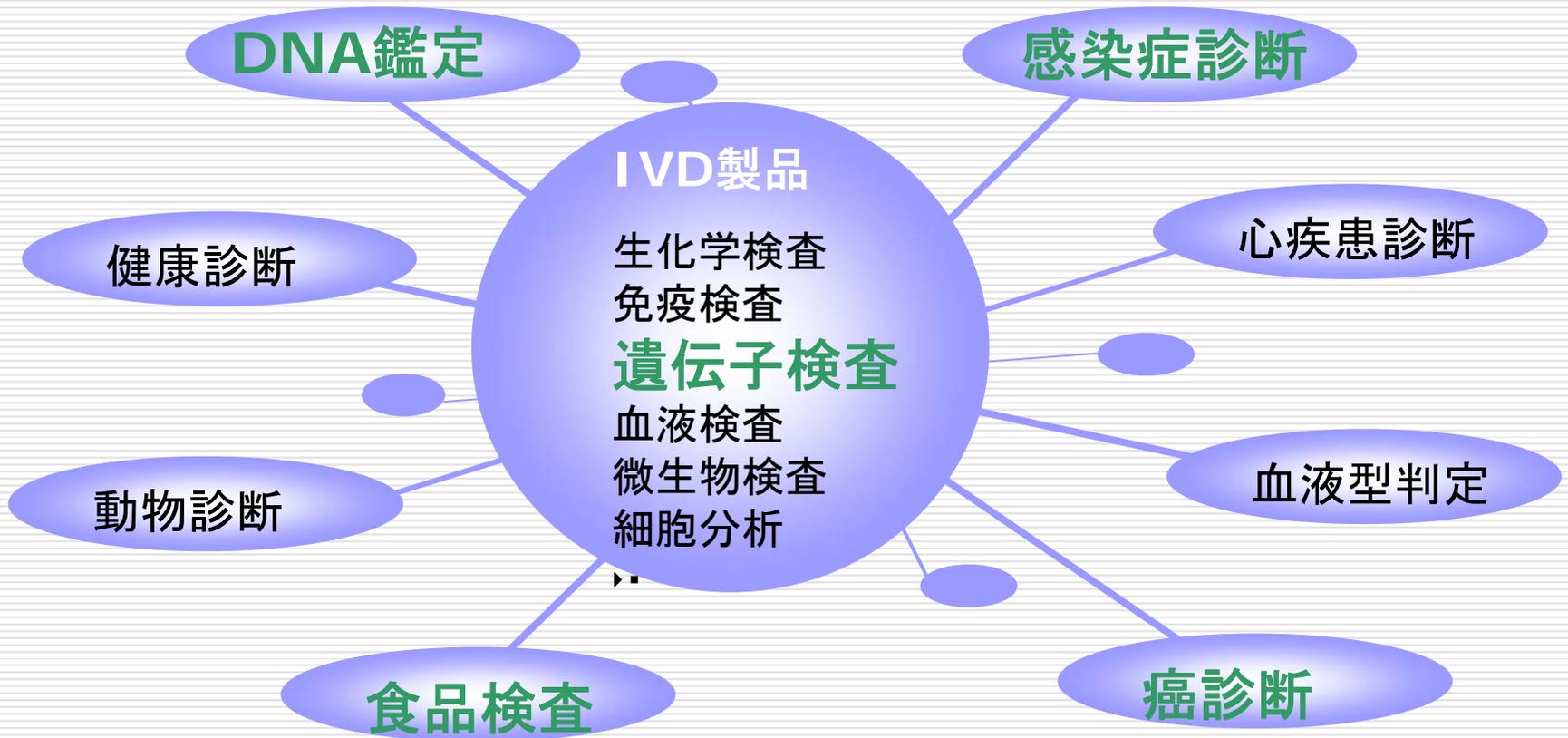
バイオビジネス市場におけるIVD市場



タンパク質検査

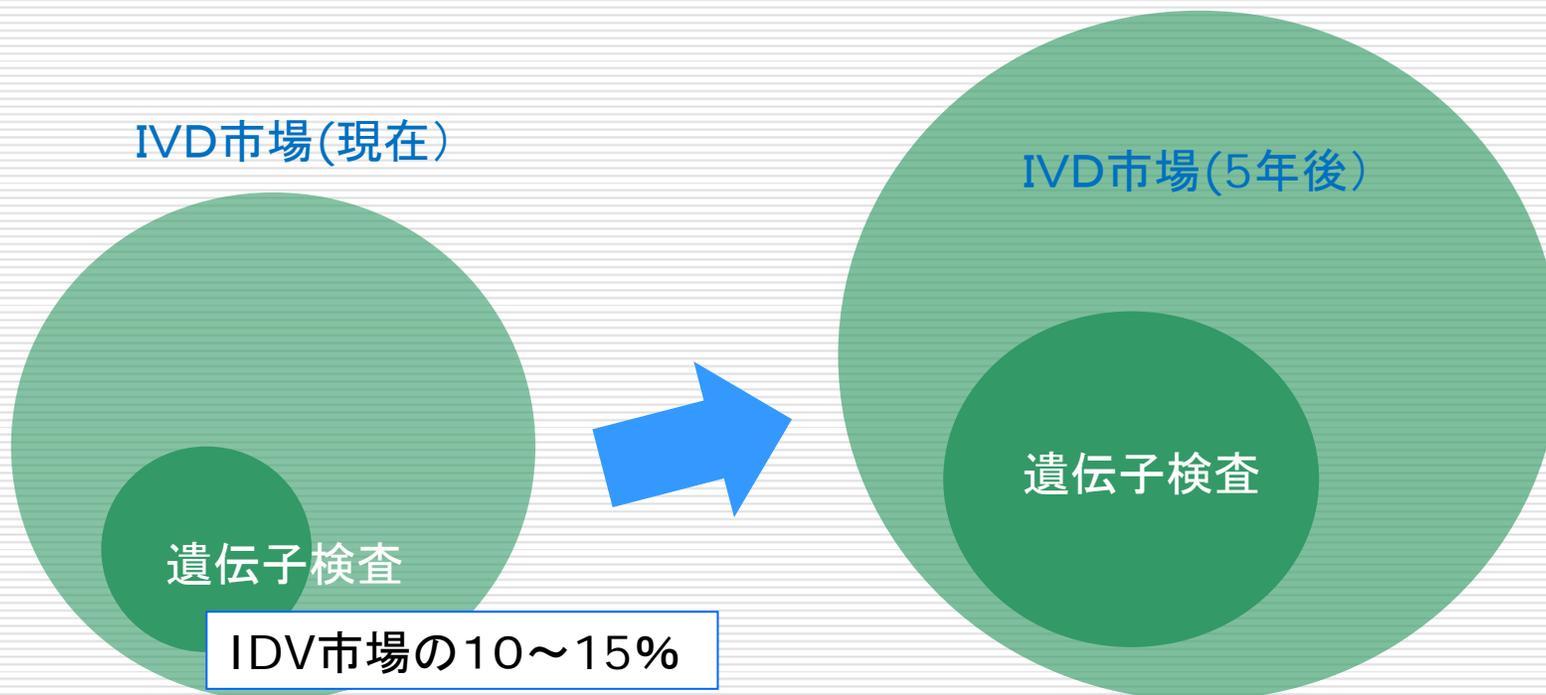


遺伝子検査



新規開発自動解析装置とターゲットエリア

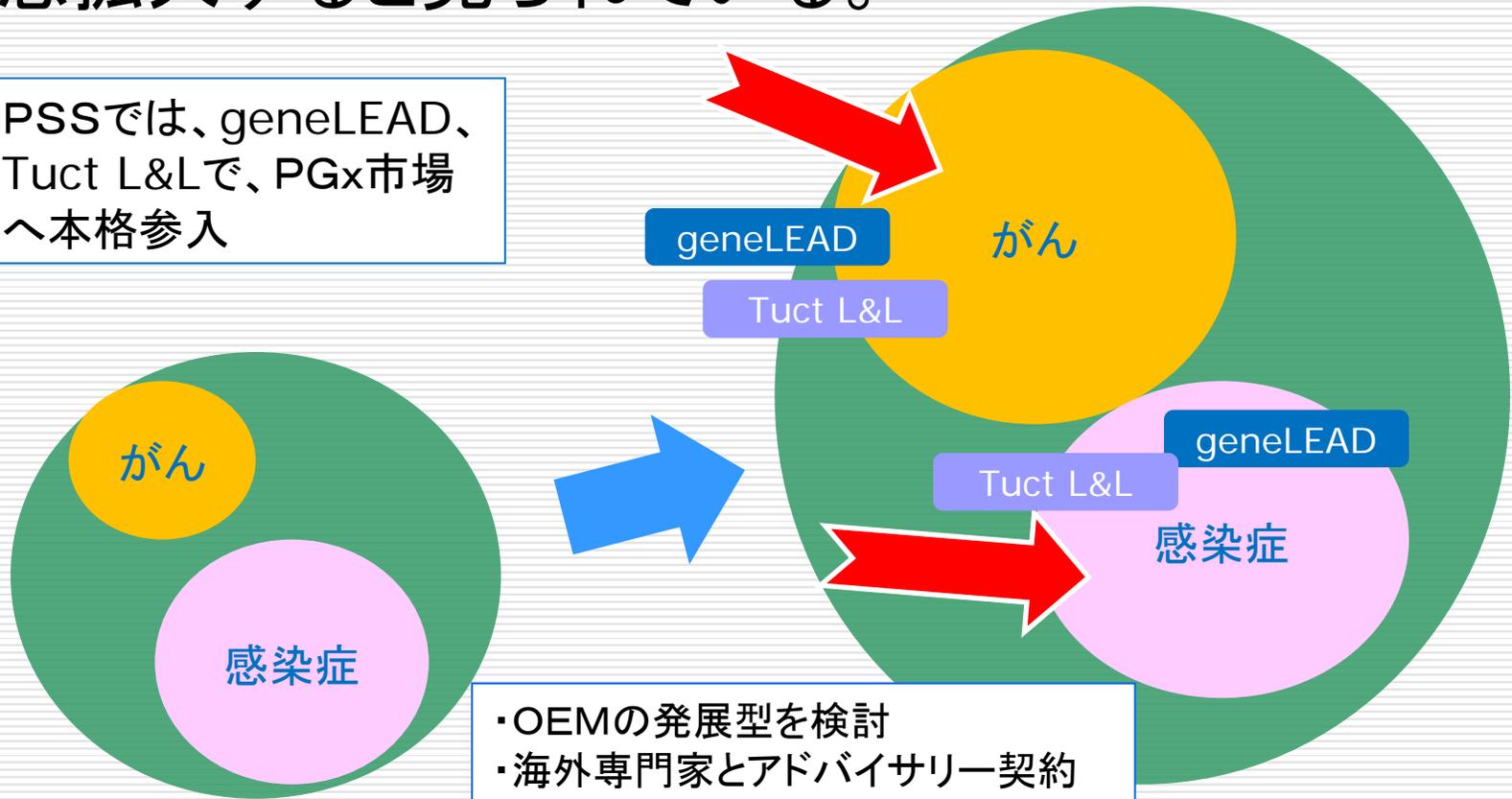
- 現在、世界で3～4兆円規模と推定されるIVD（体外診断）市場は今後、年10%程度の成長が見込まれており、その中で、遺伝子検査領域はさらに大きな成長が見込まれている。



遺伝子検査市場

- 遺伝子検査領域で、現在、主流は感染症、blood screeningだが、今後は「がん」分野での成長が、急拡大すると見られている。

PSSでは、geneLEAD、Tuct L&Lで、PGx市場へ本格参入



検査工程

遺伝子検査

DNA/RNA
抽出・精製

DNA増幅
PCR等

検出・解析

PSSの技術は、各工程の要素作業を確実にこなし得るため、正確でかつ高い応用性を備えている

全自動化に向け
技術開発

タンパク質検査

前処理
(必要に応じて)

反応
(抗原抗体反応等)

検出・解析

geneLead 小型全自動遺伝子解析装置

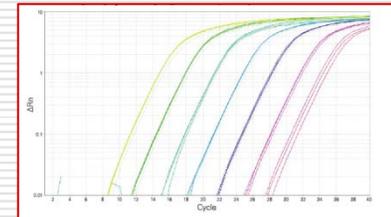
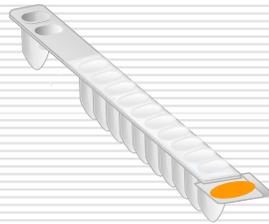
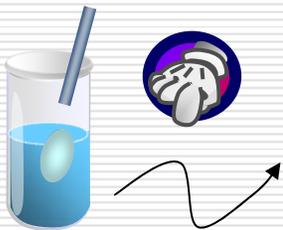
遺伝子検査の全自動装置

検体
調整

抽出・精製
Magtration®

PCR前処理
MMx調整

検出・解析
リアルタイムPCR



全自動
ウィルス
感染症



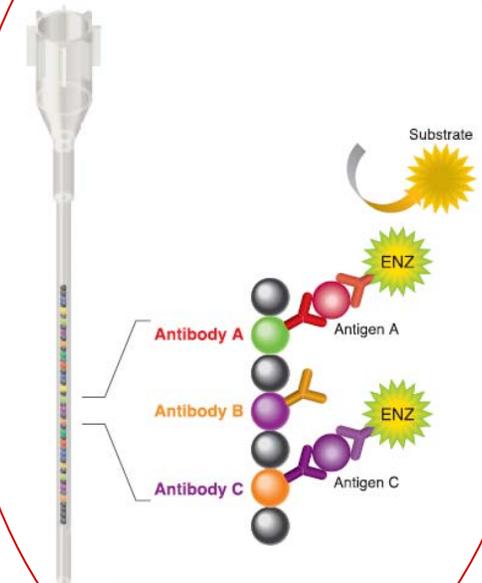
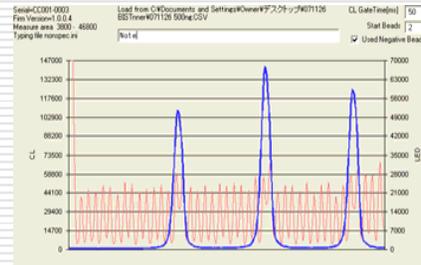
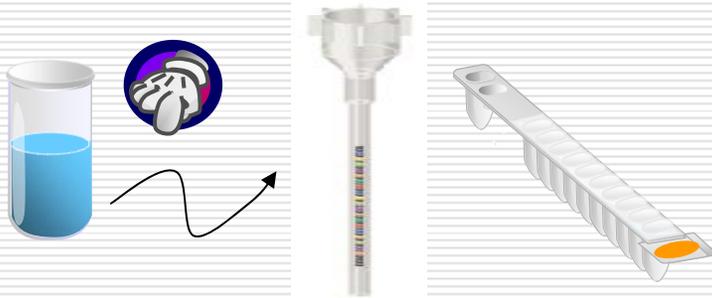
LuBEA[®] 多項目同時全自動解析装置

BIST[®]技術によるMultiAutoELISA[®]

検体
調整

抗原抗体反応
BIST[®]

検出・解析
BIST[®] (化学発光)



BIST[®]技術

全自動
食物アレルギー
食品検査



Tuct L&L 全自動遺伝子解析装置

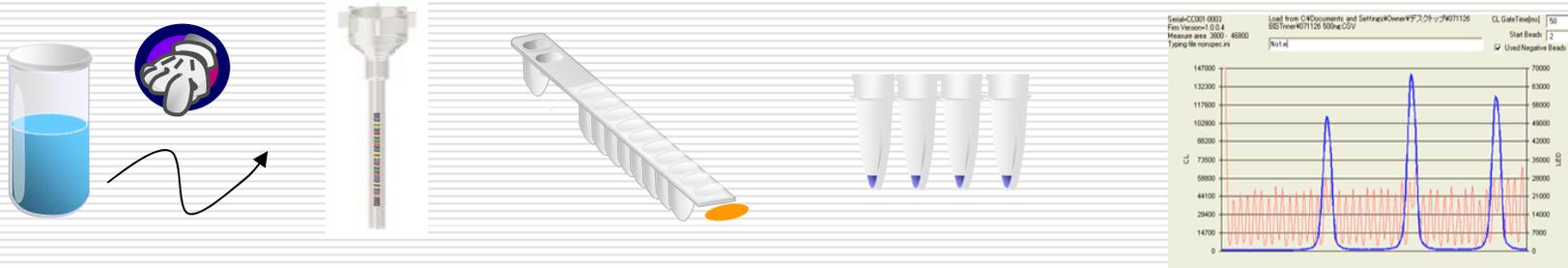
BIST技術によるMultiplex DNA Typing

検体
調整

抽出・精製
Magtration®

DNA増幅
PCR

検出・解析
BIST® (化学発光)



全自動
マグロ
種・産地特定



PSSのオリジナル全自動解析装置



geneLEAD

小型全自動遺伝子解析装置



Tuct L&L

全自動遺伝子解析装置

- PGx
- 体外遺伝子(感染症)



LuBEA[®] 多項目同時全自動解析装置

- 食品バクテリア
- 食品アレルギー

PGx PSSが対象とする項目

測定項目	対象疾患	臨床的意義	市場性
EGFR遺伝子変異	肺がん	ゲフィチニブ(イレッサ)効果予測。変異ありで薬効が期待される。	中
k-ras遺伝子変異	肺がん、膵がん、大腸がん	EGFR阻害薬、EGFR抗体医薬品の効果予測。変異ありでは効果は期待できない。	大
EWS-FLI1	軟部肉腫(ユーイング肉腫/PNET)	軟部肉腫の種別診断、悪性度診断。	小
TLS-CHOP	軟部肉腫(粘液型/円形細胞型脂肪肉腫)	軟部肉腫の種別診断、悪性度診断。	小
SYT-SSX	軟部肉腫(滑膜肉腫)	軟部肉腫の種別診断、悪性度診断。	小
マイクロサテライト安定性試験	家族性非ポリポーシス大腸がん(リンチ症候群)	リンチ症候群を診断するための補助的な検査。この試験で陽性と判断された場合、リンチ症候群の原因遺伝子の変異検査が行われる。大腸がんの予防に役立つ。	小
UGT1A1遺伝子多型	イリノテカン副作用予測	抗がん剤イリノテカンの副作用予測。UGT1A1はイリノテカンの代謝に関与しており、低代謝の遺伝子型をもつ患者は重篤な副作用が起きる可能背が高い。	中
CYP2C9, VKORC1遺伝子多型	ワーファリン投与量予測	ワーファリンの初期投与量の予測因子。CYP2C9はワーファリンの代謝に関与し、VKORC1はワーファリンの作用に関与する。	大
IL28B遺伝子多型	IFN治療効果予測	C型肝炎ウイルス感染患者における、インターフェロン(IFN)治療効果の予測。変異がある場合はIFNの治療効果は望めない。	中～大
(スティーブン・ジョンソン・シンドローム)	SJS発症リスク予測	スティーブン・ジョンソン・シンドローム(SJS)の発症リスク予測。SJSは薬剤の投与の際に重篤な皮膚障害が起きる疾患であり、その予防のための診断。	中～大

PGx 対象項目とPSS装置

測定項目	対象疾患	臨床的意義	市場性
EGFR遺伝子変異	肺がん	ゲノム検査による遺伝子変異の有無を調べる。変異ありで薬効が期待される。	中
k-ras遺伝子変異	肺がん、膵がん、大腸がん	EGFR阻害薬の効果予測。変異ありでは効果は期待できない。	大
EWS-FLI1	軟部肉腫(ユースイング肉腫/PNET)	軟部肉腫の確定診断。	小
TLS-CHOP	軟部肉腫(粘液型/円形細胞型脂肪肉腫)	軟部肉腫の確定診断。	小
SYT-SSX	軟部肉腫(滑膜肉腫)	軟部肉腫の確定診断。	小
マイクロサテライト安定性試験	家族性非ポリポーシス大腸がん(リンチ症候群)	リンチ症候群を診断するための補助的な検査。この試験で陽性と判断された場合、遺伝子の変異検査が行われる。大腸がんの予防に役立つ。	小
UGT1A1遺伝子多型	イリノテカン副作用予測	抗がん剤イリノテカンの副作用予測。UGT1A1はイリノテカンの代謝に関与しており、低代謝の遺伝子型をもつ患者は副作用が重くなる可能背が高い。	中
CYP2C9, VKORC1遺伝子多型	ワーファリン投与量予測	ワーファリンの初期投与量の予測因子。CYP2C9はワーファリンの代謝に関与し、VKORC1はワーファリンの作用因子。	大
IL28B遺伝子多型	IFN治療効果予測	C型肝炎ウイルス感染患者におけるIFN治療効果の予測。変異がある場合はIFNの治療効果が低下する。	中～大
(スティーブン・ジョンソン・シンドローム)	SJS発症リスク予測	スティーブン・ジョンソン・シンドローム(SJS)の発症リスク予測。SJSは薬剤の投与の際に重篤な皮膚障害が起きる。	中～大

geneLEAD

geneLEAD

geneLEAD

geneLEAD

geneLEAD

geneLEAD

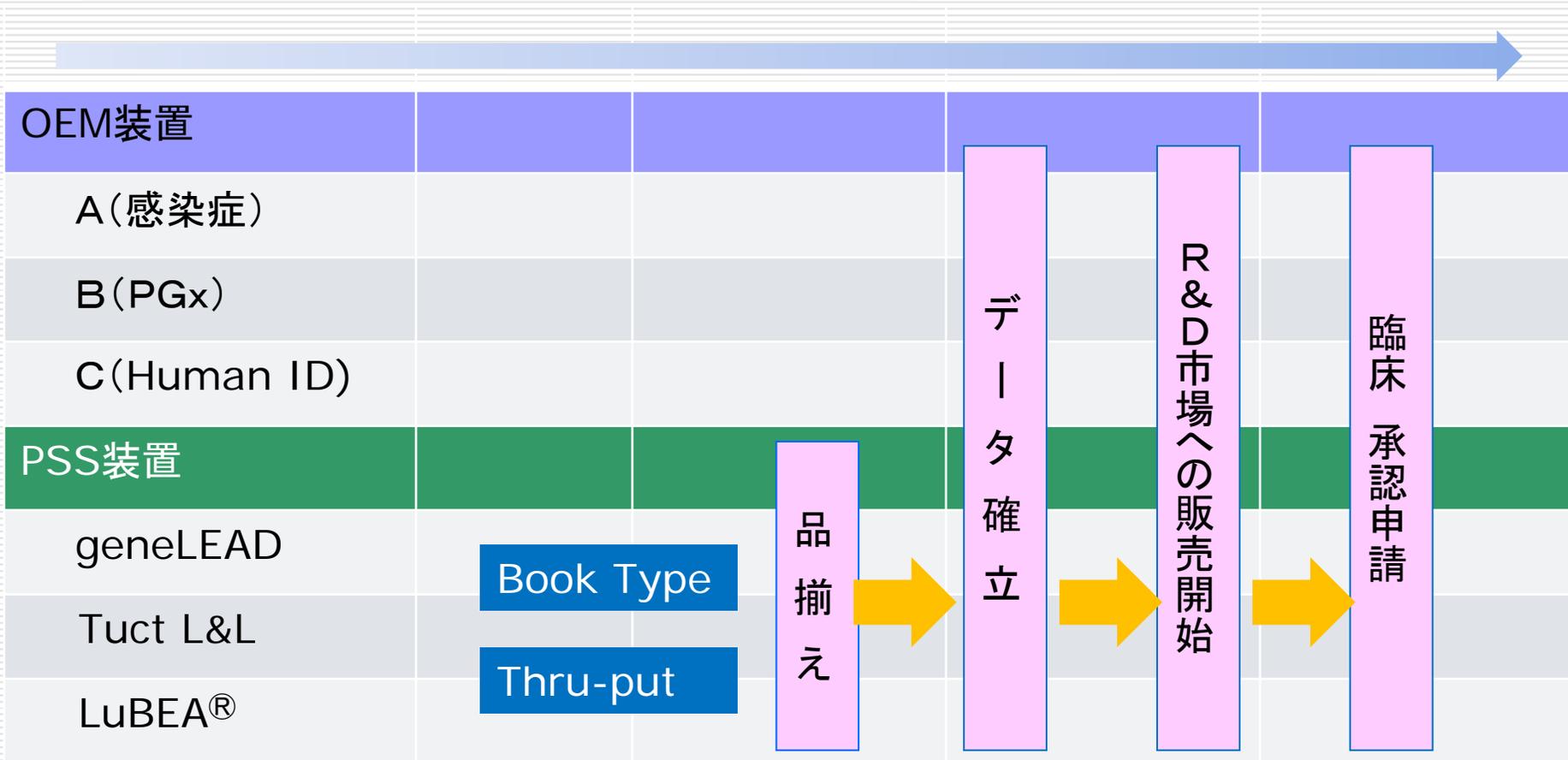
Tuct L&L

Tuct L&L

Tuct L&L

Tuct L&L

全自動解析装置 上市までの工程



本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。

そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

2010年8月31日
プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
<http://www.pss.co.jp/>